

熊本県の温州ミカンの施肥実態について

岩本 数人・大津 量男・金川 英明

(熊本県果樹試験場)

I WAMOTO, K., OTSU, K. and KANAGAWA, H.

Actual Fertilization of Satsuma Oranges in Kumamoto Prefecture.

熊本県の果樹広域濃密生産団地8地区から、ほぼ当該地区の栽培面積に見合った農家数を任意に選んで、施肥の実態と農家の施肥に対する意識について調査を行なった。結果の概要は次のとおりである。なお、調査農家数は22市町村の247戸である。

1. 収量, 10a当り平均収量は早生温州2.8トン, 普通温州2.9トンであるが,これを地区別にみれば,早生温州では天草地区が最も低く,金峰山,中央,八代の各地区は3トン以上で高い。普通温州も同じ傾向で,金峰山地区の4トンを最高について宇城,八代地区と続き,鹿本地区が1.8トンと最も低い。

2. 収量とチッソ施肥量,収量を大きく支配する肥料要素としては,まずチッソであるが本調査では,早生温州は概して収量の低い園はチッソ施肥量も少ない。しかし,1トンから4トンまでのチッソ施肥量は順に23.3,27.2,25.4,29.8kgとその差は小さく,収量に対してはチッソの影響のほかに,植栽本数,樹令なども影響していると思われる。特に旧産地におけるチッソ肥料と収量の一定傾向はみられない。

3. 三要素の比率,早生温州はチッソ28.1,リン酸24.2,カリ21.2kgで,普通温州はチッソ28.9,リン酸24.1,カリ21.8kgとなっている。

第1表 地区別のチッソ施肥量(kg)と収量(t)

地区名	早生温州		普通温州	
	チッソ施肥量	収量	チッソ施肥量	収量
玉名	29.8	2.7	28.4	2.5
鹿本	35.7	2.8	24.5	1.8
金峰山	26.2	3.3	27.6	4.0
中央	25.7	3.2	18.5	2.6
宇城	24.8	2.6	31.0	3.0
八代	29.7	3.1	36.5	3.1
芦北	31.3	1.4	34.2	2.0
天草	28.8	1.9	28.3	2.2
計(平均)	28.1	2.8	28.9	2.9

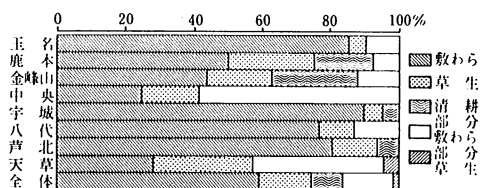
4. 施肥回数 早生温州,普通温州ともに3回施肥が最も多く,全体の50~60%をしめる。

5. 肥料の種類 早生温州は春1回目と秋肥は有機配合肥料と化成肥料が約50%ずつをしめ,春2回目と夏肥は化成肥料が70%をしめている。普通温州は化成肥料の使用が早生温州よりやや少ないが,大略の傾向は早生温州に準ずる。新興産地では有機配合肥料の使用は少ない。

6. 土壌管理法 早生温州では敷わら法56%,部分敷わら23%,草生法11%,清耕法11%,その他となっている。普通温州は前述の順で60,15,15,9%,その他となっていて,敷わらの10a当りの量は1トンが平均である。

7. 土壌改良剤の使用,苦土石灰を除きたいわゆる土壌改良剤の使用例は非常に少ない。苦土石灰の施用量は100~200kgが最も多く,100kg以下は20%に満たない。

8. 施肥金額 成木園10a当りの施肥金額は5000~10,000円が38%,10,000~15,000円が41.2%であった。



第1図 土壌管理法(普通温州)

第2表 普通温州の旧産地と新興産地の収量とチッソ施肥量(kg)

地区別	調査農家数(戸)	1.0トン以下	1.1~2.0	2.1~3.0	3.1~4.0	4.1以上
旧産地	51	0	33.6	28.7	37.6	31.9
新興産地	133	24.5	23.1	29.0	32.3	44.7
全体	184	24.5	23.6	29.0	34.5	35.0